キャリタス就活2022
[career+]

株式会社ディスコ
キャリタスリサーチ

2022年卒
Vol.07

5月1日時点の就職活動調査

キャリタス就活2022 学生モニター調査結果（2021年5月発行）

企業の採用広報開始から2カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5月1日現在のキャリタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行った。内定率は6割に迫る高水準をマークしたが、多くの学生が内定を保持しながら活動を継続している様子もわかった。

前年同期調査や先月（今年4月調査）との比較を中心に、全体的な活動状況を確認したい。

１．エントリー社数とセミナー参加社数

〇一人あたりのエントリー社数の平均は27.1社。1カ月間で2.7社増加
〇WEBセミナーの参加経験者は9割に（90.0%）。会場型は4割（43.7%）。

２．選考試験の受験状況

〇ES提出社数は平均14.9社。筆記10.2社、面接7.5社。いずれも前年同期を上回る
〇WEB面接が依然主流も、対面面接が先月より増加（54.2%→67.5%）

３．5月1日現在の内定状況

〇内定率は58.4%。前年同期実績（50.2%）を8.2ポイント上回る
〇内定企業の6割強（61.8%）が「インターンシップ参加企業」
〇就職先を決めて活動を終了したのは全体の2割強（23.4%）

４．内定を得た企業の属性

〇内定業界は「情報処理・ソフトウエア」に集中（36.7%）。2位「建設・住宅・不動産」（17.1%）
〇従業員1,000人以上の大手企業からの内定が6割を占める（64.9%）

５．内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

〇入社の意思決定に、対面でのフォローを必要とする学生は7割超
〇必要なフォローは「社員との交流機会」が最多。「他の内定者との交流機会」が続く

６．就職活動継続学生の動向

〇現在選考中の企業は平均4.5社。前年同期を1.0社下回る。
〇就職活動を終えたい時期は6月に集中。前半・後半あわせて4割強（43.7%）

７．就活川柳

〇「オンライン　慣れたものだよ　カメラ目線」
〇「内々定　ここから始まる　心理戦」

調査概要

調査対象：2022年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,273人（文系男子437人、文系女子355人、理系男子342人、理系女子139人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2021年5月1日～6日
サンプリング：キャリタス就活2022学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

株式会社ディスコ
キャリタスリサーチ

1．エントリー社数とセミナー参加社数

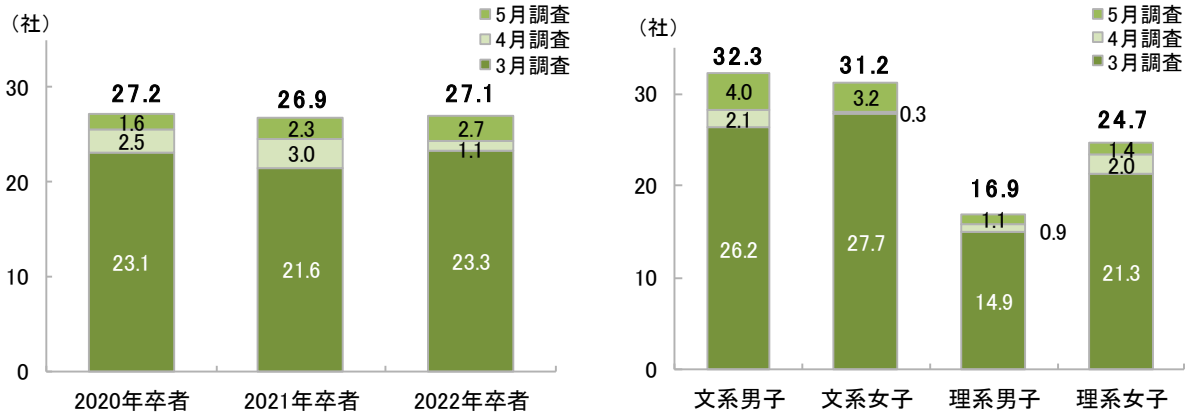
採用広報解禁から2カ月が経過した5月1日時点での就職活動状況を調べた。

まず、一人あたりのエントリー社数の平均は27.1社。4月調査ではペースの鈍化が著しかったが、この1カ月で平均2.7社増えるなど伸びが見られる。就職戦線が早いペースで進む中で（後述）、早くも当初志望していた企業に落ちてしまい、新たな企業に目を向ける学生も一定数出たことが推測できる。

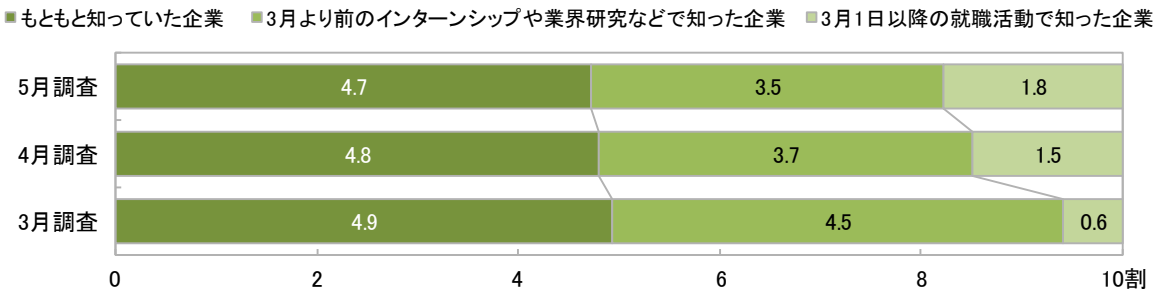
エントリーした企業を知った時期の比率も、「3月1日以降に知った企業」の割合が月を追うごとに増えている様子が見て取れる。

企業セミナーについては、「オンライン形式（WEBセミナー）」への参加率は9割に達しているが、会場型は4割程度（43.7%）。参加社数も同様の傾向で、コロナ禍が長引く中、企業の話を対面で聞く機会はかなり限られているのが現状だ。

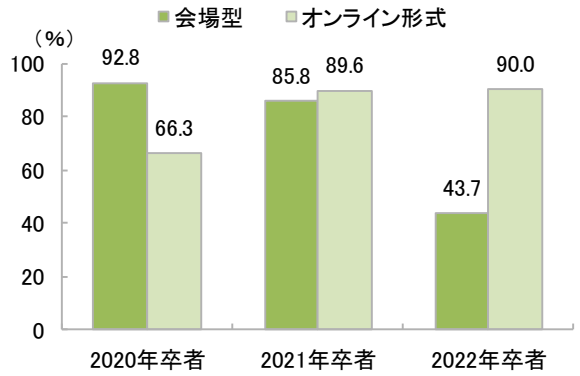
＜エントリー社数＞



＜エントリーした企業を知った時期＞

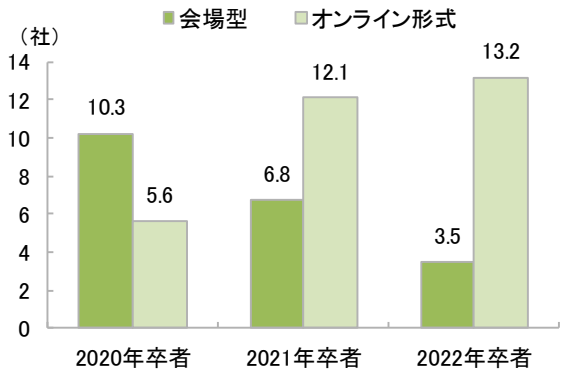


＜セミナー参加・視聴経験＞



※各年5月調査

＜セミナー参加・視聴社数＞



※各年5月調査

株式会社ディスコ
キャリタスリサーチ

２．選考試験の受験状況

選考試験の受験状況を見てみよう。エントリーシート（ES）、筆記・適性テスト、面接試験、最終面接のいずれも、経験率・受験社数ともに前年実績を上回った。特に最終面接は前年同期から 6.7 ポイント増え、約 7 割が経験したと回答（69.9%）。早くも最終段階まで進むケースが増えた様子がうかがえる。

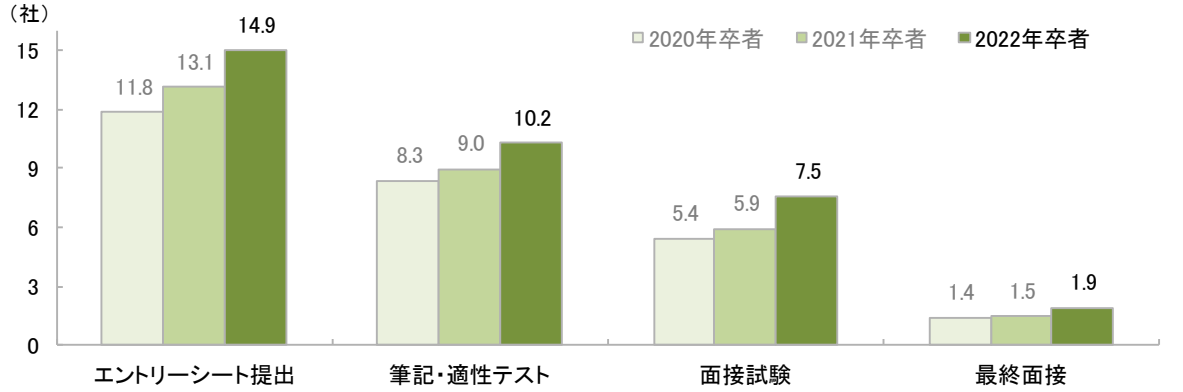
面接形式ごとに受験状況を見ると、面接受験者のうち WEB 面接の経験者は 9 割を超えているのに対し（96.3%）、対面面接は 6 割強（67.5%）。オンラインを中心に進行していることが鮮明だ。ただし、対面経験は 4 月調査からの 1 カ月間で 10 ポイント以上伸びている（13.3 ポイント増）。1 次面接など序盤の面接はオンラインでも、最終面接は対面でという企業が出てきているものと考えられる。

＜選考試験の受験状況＞

（%）

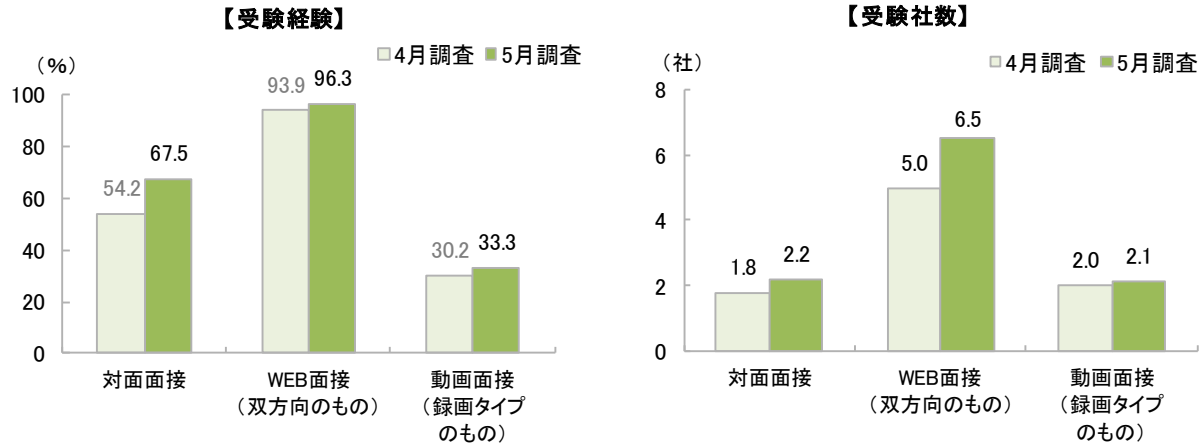
	全体	（前年全体）	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	93.5	92.1	94.0	97.5	90.1	90.6
筆記・適性テスト	93.2	91.3	93.6	96.1	90.9	90.6
面接試験	90.1	89.2	90.6	93.8	86.3	88.5
最終面接	69.9	63.2	64.6	72.4	71.6	75.5

＜選考試験の受験社数＞



※オンライン形式も含む　※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出

＜面接形式ごとの受験状況＞



株式会社ディスコ
キャリタスリサーチ

３．５月１日現在の内定状況

５月１日の調査時点で内定を得ている学生は全体の 58.4%。先月（4 月 1 日、38.2%）からの 1 カ月間に約 20 ポイント上昇し、前年同期（50.2%）を 8.2 ポイント上回った。前年はコロナによる初めての緊急事態宣言発令で、採用活動が停滞していた中での数字であり、その分、差が大きく出た格好だ。

内定率は理系においてより高く、男女とも 6 割を超えている。

内定企業の内訳を確認すると、6 割強（61.8%）がインターンシップ（※）に参加した企業だった（グラフは次ページに掲載）。月を追うごとに比率は下がってきているが、依然としてインターン企業からの内定が中心だ。

（※1日以内のプログラムも含めて調査）

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは 40.1%。内定取得後も過半数（53.3%）は就職活動を続けている。但し、理系では終了の割合が高く、特に理系男子では内定取得者の 6 割強が活動を終了したと回答した。

＜5 月 1 日現在の内定状況＞

＊「内定」には、内々定を含む

（%）

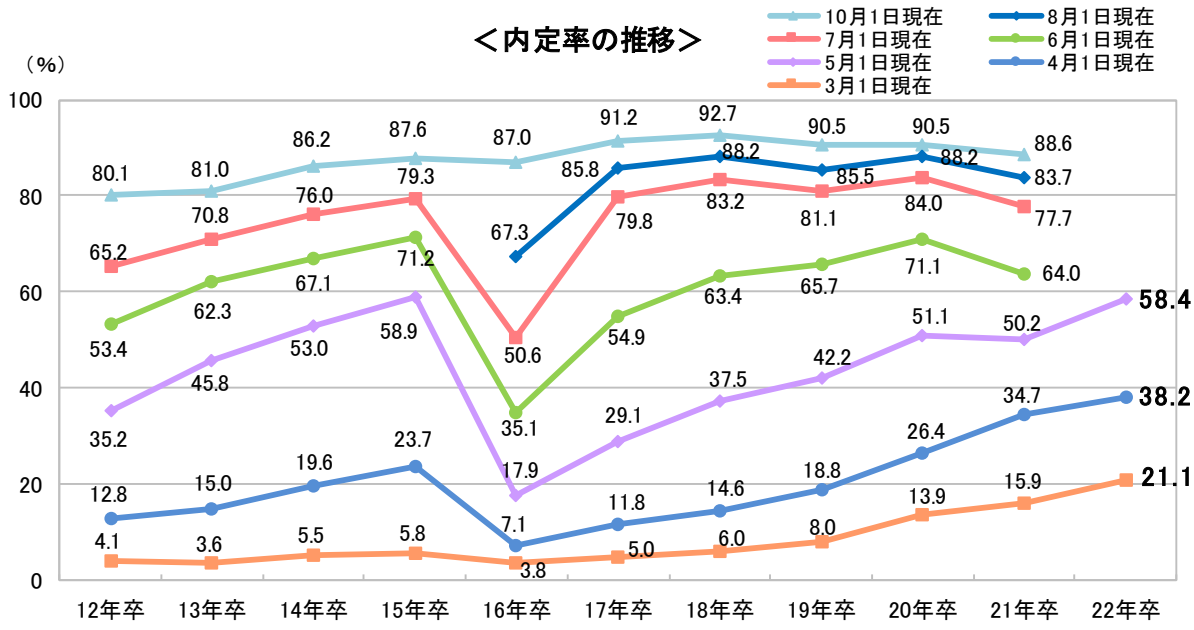
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		58.4 (50.2)	51.3 (39.8)	58.9 (49.7)	64.3 (60.5)	64.7 (55.6)
内定なし		41.6 (49.8)	48.7 (60.2)	41.1 (50.3)	35.7 (39.5)	35.3 (44.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	40.1 (36.8)	23.2 (26.0)	28.2 (29.4)	61.4 (45.9)	57.8 (53.6)
	活動は終了したが複数内定保持	5.9 (4.6)	7.1 (3.9)	7.7 (6.1)	5.0 (3.9)	1.1 (4.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.7 (0.7)	0.0 (1.3)	1.0 (0.0)	0.9 (1.0)	1.1 (0.0)
	就職活動継続	53.3 (57.9)	69.6 (68.8)	63.2 (64.4)	32.7 (49.3)	40.0 (42.0)

（社）

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均	1.9 (1.7)	2.0 (1.6)	1.9 (1.6)	1.9 (1.7)	1.8 (1.7)

※（　　）内は前年（5月1日現在）の数値

＜内定率の推移＞

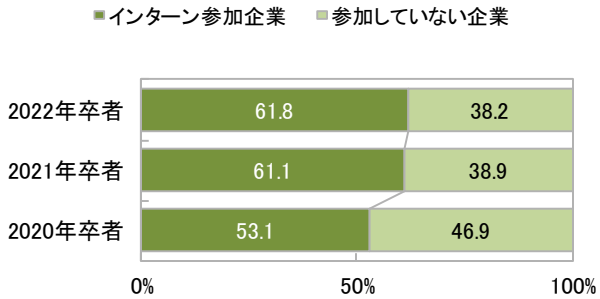


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17～22卒は6月　　※15年卒以前は8月のデータはなし

株式会社ディスコ
キャリタスリサーチ

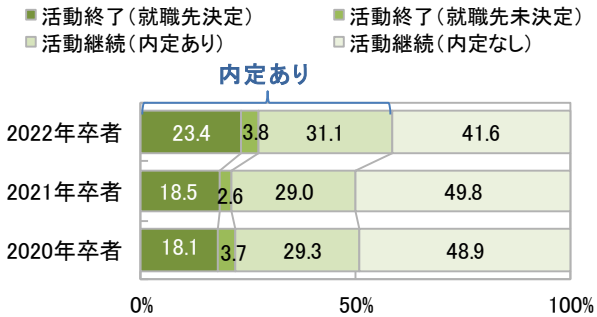
モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は23.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者（3.8%）を合わせると、終了者の割合は27.2%。残りの7割以上は活動中であり、内定の有無によらず多くの学生にとって、やはり選考解禁後の6月が正念場になりそうだ。

＜内定を得た企業のインターン参加＞



※1日以内のプログラムも含む

＜活動状況の分布＞



4．内定を得た企業の属性

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた（全 40 業界。複数回答あり）。「情報処理・ソフトウエア」が先月に続いて 1 位。ポイント数も増え（33.4%→36.7%）、この 1 カ月でさらに多くの内定が出た様子がわかる。2 位は「建設・住宅・不動産」（17.1%）で、特に理系で多い（26.1%）。

内定企業の従業員規模の比率を出してみると、最も多いのは「1,000 人～4,999 人」（34.6%）だが、中堅・中小企業も 3 割を超えており（計 35.6%）、規模によらず内定出しが進んでいるようだ。

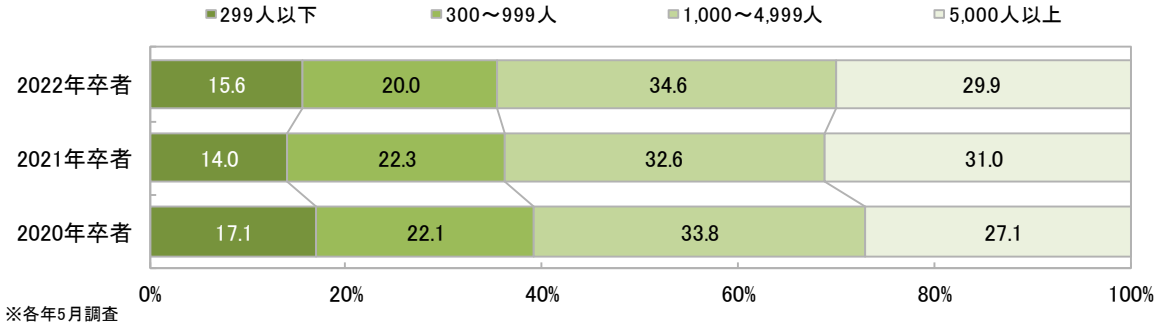
＜内定を得た業界（上位 5 業界）＞

（%）

	全　体		文　系		理　系	
1	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	36.7	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	38.1	情報処理・ソフトウエア・ゲームソフト	34.8
2	建設・住宅・不動産	17.1	その他サービス	14.3	建設・住宅・不動産	26.1
3	調査・コンサルタント	11.7	調査・コンサルタント	12.7	電子・電機	14.2
4	その他サービス	9.4	専門店	12.5	機械・プラントエンジニアリング	11.9
5	運輸・倉庫	9.0	建設・住宅・不動産	10.6	調査・コンサルタント	10.3
			運輸・倉庫	10.6	素材・化学	10.3

※「その他サービス」＝セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

＜内定を得た企業の従業員規模＞



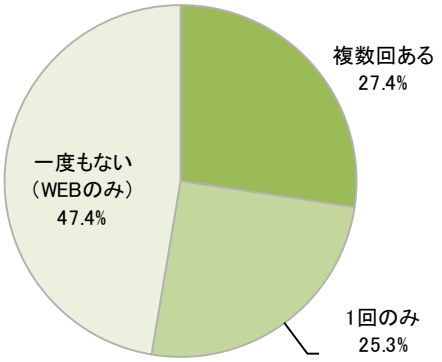
※各年5月調査

５．内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

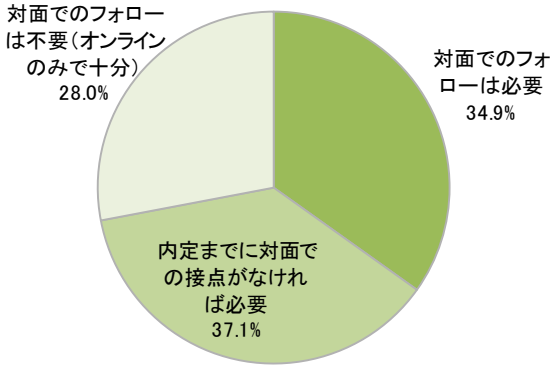
内定を得た企業について、セミナーや選考などで対面での接点を持っていたかどうかを尋ねたところ、「一度もない（WEB のみ）」が半数近くに上った（47.4%）。また、「1 回のみ」が 4 分の 1 を占め（25.3%）、対面での接点がほとんどないまま内定に至るケースが大半だ。その分、入社の意思決定に際し、対面でのフォローを必要とする学生は多く、「対面でのフォローは必要」（34.9%）、「内定までに対面での接点がなければ必要」（37.1%）を合わせて 7 割を超える（72.0%）。

対面かオンラインかの形式にかかわらず、具体的に必要だと思うフォローを尋ねたところ、「社員との交流機会」が圧倒的に多く、7 割近くが選んだ（68.1%）。現場の社員と話をすることで、仕事内容や社風、働き方などを確認したいのだろう。次いで、「他の内定者との交流機会」（45.6%）、「人事担当者との面談」（44.8%）が 4 割台で続く。

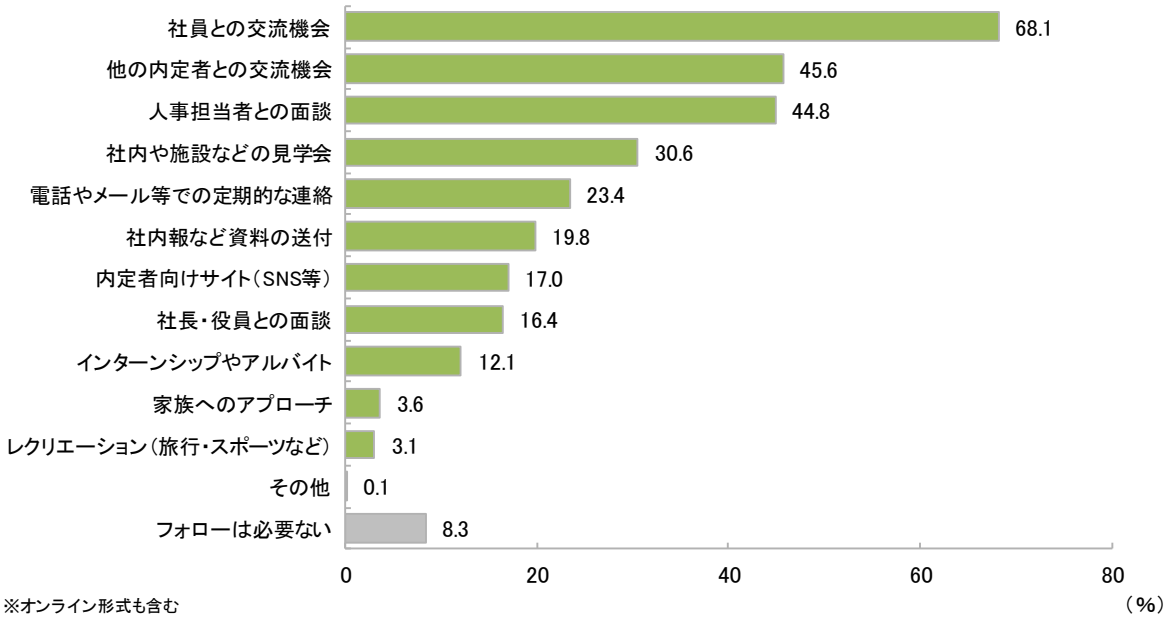
＜内定企業の対面接触経験＞



＜対面でのフォローの必要性＞



＜内定企業への意思決定に必要だと思うフォロー＞

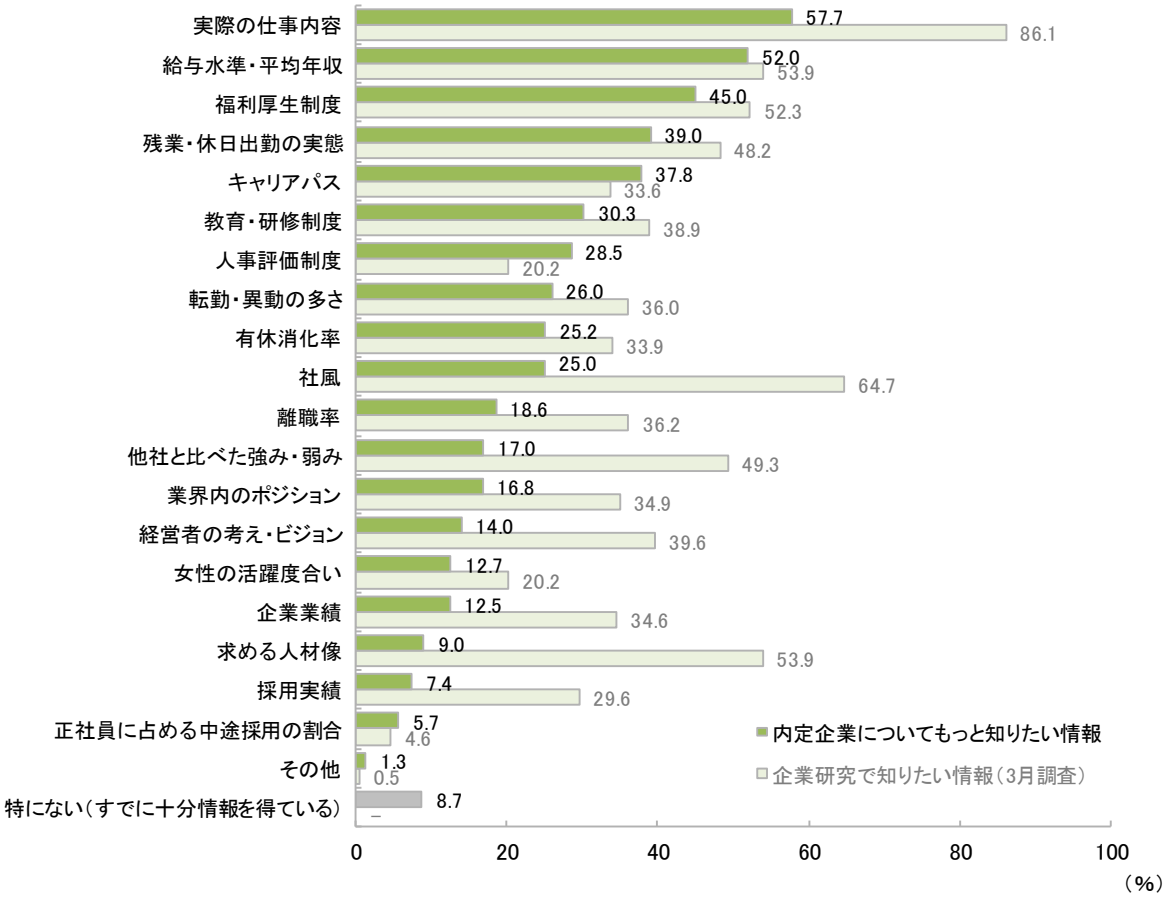


※オンライン形式も含む

さらに、内定企業についてもっと知りたい情報を尋ね、今年 3 月に聞いた「企業研究で知りたい情報」と比較してみた。いずれも最も多いのは「実際の仕事内容」だが、ポイントは大きく減少（28.4 ポイント減）。セミナーや選考などを通じて情報を得られた学生も多いようだ。ただし、内定後には、さらに踏み込んだ具体的な業務内容を知ることで、働くイメージを固めたいという意見も見られた。

また、「給与水準・平均年収」（52.0%）、「福利厚生制度」（45.0%）、「残業・休日出勤の実態」（39.0%）などが上位項目に挙げられており、選考中には聞きづらい情報も、入社の意思決定にあたっては、しっかり確認したいという意向がうかがえる。

＜内定企業についてもっと知りたい情報＞



■具体的に知りたい情報や必要だと思う内定後フォロー

○実際の業務や社風を、社員の方が包み隠さず話してくれる機会がほしい。 ＜文系女子＞
○仕事の内容や職場の雰囲気を知りたい。社員さんと話せる機会は多いほどうれしい。 ＜理系男子＞
○新入社員がどのぐらい活躍しているのかを、懇親会などを通して知りたい。 ＜文系男子＞
○全般的に待遇面が気になる。面接では一般的にタブーとされる情報を精査して、就職先を決定したい。 ＜文系男子＞
○入社 5 年後、10 年後の社員の平均年収、評価のされ方、経営者の考えや戦略。 ＜文系女子＞
○キャリアを考える上で、福利厚生や給与、人材育成の情報は必須だと考える。 ＜文系男子＞
○勤務地・職種の決定時期や転勤頻度、福利厚生、残業時間など面接では聞きにくいこと。 ＜理系女子＞
○残業や休日出勤が実際はどれだけあるのか。海外も含めた出張や出向の実情。 ＜理系男子＞
○複数社員のキャリアパスの例を示して欲しい。 ＜文系男子＞
○働く場所のイメージを膨らませるために、社員の方との交流会や、社屋の見学などが必要。 ＜文系女子＞
○自分はどれぐらいの人の中から選ばれたのか、またどの点を評価してくれたのか知りたい。 ＜理系男子＞

株式会社ディスコ
キャリタスリサーチ

６．就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（全体の 72.7%）の動向を確認したい。

現在選考中の企業数は平均 4.5 社で、前年同期（5.5 社）を 1.0 社下回る。前年よりも選考のタイミングが繰り上がっている中で（3 ページ）、早くも持ち駒が減ってきている様子が見て取れる。内定率が高水準をマークする一方で、就活継続学生の中には苦戦を強いられている者も少なくないようだ。

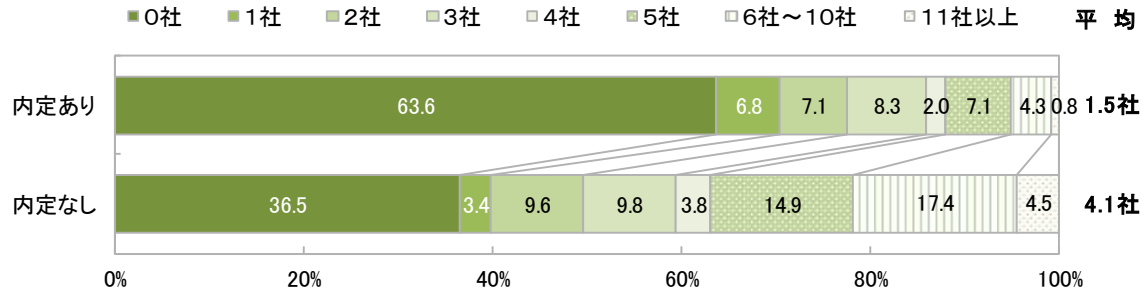
今後エントリーを予定している社数を尋ね、内定有無別に集計した。内定あり学生の 6 割以上が「0 社」、つまり今後新たな企業にエントリーする予定はないと回答。ただ、残りの 4 割近くが内定を保持しながら新しい企業へのアプローチを考えていることになる。

未内定者はより積極的で、エントリー予定者は 6 割強（計 63.5%）に上る。3 割強（計 36.8%）が 5 社以上のエントリーを予定しており、平均社数は 4.1 社。内定獲得に向け、新たな企業に目を向けようとする意欲的な学生が多い。

（社）

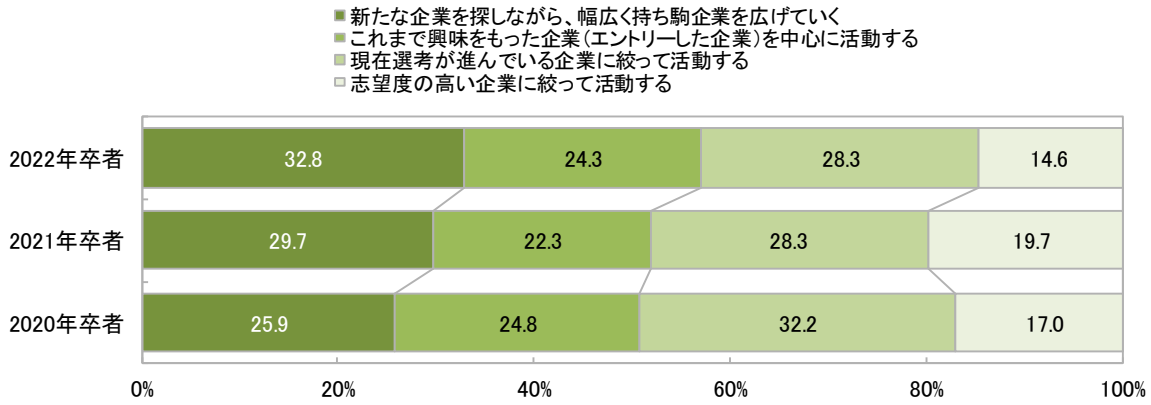
	全体	（2021年卒者）	（2020年卒者）	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	4.5	5.5	5.4	5.3	5.0	3.1	3.1

＜今後のエントリー予定社数＞



続いて、今後就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」で3割強（32.8%）。前年同期を3.1ポイント上回る。一方で「志望度の高い企業に絞って活動する」は14.6%と前年同期を5.1ポイント下回った。持ち駒が少なくなる中で、企業を絞るよりは幅広く選択肢を広げていきたいという意向がこのデータからも読み取れる。

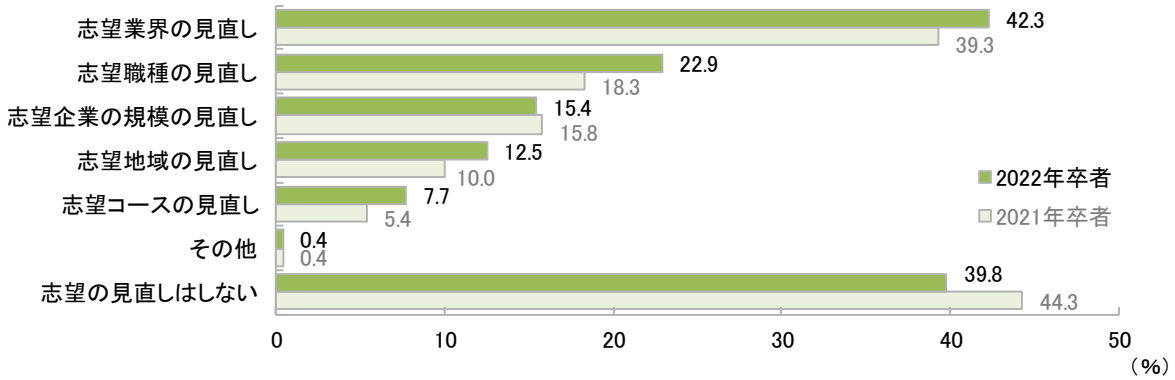
＜今後の就職活動の方針・戦略＞



※各年5月調査

今後エントリーを予定している学生に、受験企業（持ち駒）を増やすために見直すことを尋ねた。「志望業界の見直し」が 4 割を超え最も多く（42.3%）、続く「志望職種の見直し」（22.9%）とともに前年を上回る。一方で、「志望の見直しはしない」は 39.8%と 4.5 ポイント減少した。当初の志望に固執することなく、業界や職種、地域などを見直す動きが見て取れる。但し、企業規模については前年と同程度を維持している。

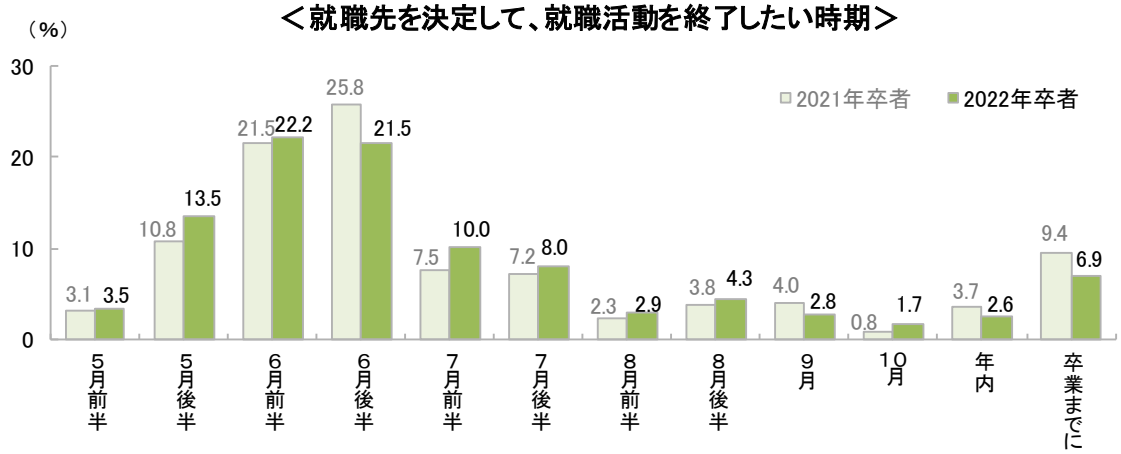
＜持ち駒企業を増やすために見直すこと＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねた。前年に引き続き「6 月」を回答した学生が多く、前半・後半を合わせて 4 割以上が選択（計 43.7%）。選考解禁後の早い時期に終了したいと考えている学生が多いことがわかる。

また、5 月中の終了を期待する学生が増える一方で（計 13.9%→17.0%）、7 月～8 月も増加するなど（計 20.8%→25.2%）、前年に比べて山はなだらか。早めに決めたい学生と、じっくり取り組んでいきたい学生とで回答が分散したものと見られる。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



■就活継続学生の声

○想定よりも早い段階で持ち駒数が減ってきた。 ＜文系男子＞
○思いのほか通らないので驚いているし、焦っている。 ＜文系女子＞
○内定をもらう人が増えている中、内定をもらえる自分をまったく想像できない。 ＜理系女子＞
○希望業界と適性がマッチしていないと感じるようになり、希望業界を変えて就職活動を行なっている。 ＜文系男子＞
○ほぼ最終面接までたどり着いており、終盤に近付いていると感じる。 ＜理系女子＞
○内定は貰えていないが、最終面接を控えており、5 月中には内定をいただけそう。 ＜文系男子＞
○トップ企業ばかり受けているので、内定までなかなかたどり着かない。 ＜理系男子＞

株式会社ディスコ
キャリタスリサーチ

7．就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 595 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

コロナ禍によりオンライン中心の活動が広がる中で、自宅就活の体験を題材にした作品が目立った。また、就職環境の変化への戸惑いなど、どれも等身大の就活生の心情がよく表れている。

オンライン
慣れたものだよ
カメラ目線
（理系女子）

面接を
受けてる最中
母乱入
（文系男子）

大企業
なんでいいのか
でもめざす
（理系女子）

本選考
インターンより
気持ち楽
（文系男子）

観光業
学んでたのに
さようなら
（文系女子）

あいさつと
笑顔を意識
即内定
（文系男子）

コロナ禍で
対面対策
盲点に
（理系男子）

御社にも
女子にもフラれ
希望なし
（文系男子）

一年後
大変だったと
笑いたい
（文系女子）

内々定
ここから始まる
心理戦
（理系男子）

いまだ見ぬ
社屋に勤める
実感無！
（文系女子）